

# 令和 7 年度 学校評価報告書

令和 8 年 1 月 北海道真駒内養護学校

## 1. はじめに

本報告書は、令和 7 年度に実施した学校評価（教職員・保護者・関係者による評価）の結果をもとに、本校の教育活動の現状を整理し、今後のより良い学校運営につなげていくことを目的としています。

評価結果を丁寧に読み取ることで、本校の良さがどこにあるのか、また、今後さらに工夫や改善を重ねていきたい点は何かを、できるだけ客観的に確認しました。本報告書は、専門的な分析資料であると同時に、保護者や地域の皆様にも本校の取組を理解していただくための資料として位置付けています。

以下では、評価結果の全体像、主な項目ごとの傾向、そして総合的なまとめについて、順を追って説明します。

---

## 2. 令和 7 年度 学校評価の全体概要

学校評価は、日々の教育活動を振り返り、より良い学校づくりを進めるための大切な機会です。また、学校と保護者・地域との相互理解を深めるための手段でもあります。

### 2.1 評価の実施状況

令和 7 年度は、教職員・保護者・関係者を対象にアンケート形式で評価を実施しました。回答状況は以下のとおりです。

- 教職員：116 名（回答率約 90%）
- 保護者：81 名
- 関係者：26 名

※ 今年度は5段階評価を採用しています。前年度とは評価の段階数が異なるため、数値の比較にあたっては、その点を踏まえて見えています。

## 2.2 全体的な傾向

評価結果から、次のような全体傾向が見られました。

- 保護者からは、項目によって評価の差が見られました。個別の教育支援計画の説明や、担任との日常的なやりとりについては一定の評価が得られている一方で、取組の内容や成果が十分に伝わっていないと感じている声も見受けられました。
- 教職員による自己評価は、概ね前向きである一方、改善の余地を意識したものとなっています。働きやすさや業務の進め方については、今後さらに工夫していきたいという声が見られました。
- 関係者の評価からは、本校の教育活動や取組について十分に理解されていない状況が明らかになりました。学校としての方針や実践が外部に十分伝わっていないことは課題であり、情報発信や説明の在り方を見直す必要があります。

これらの結果は、学校の内側と外側とで、感じ方や見え方に違いがあることを示しています。

---

## 3. 主な評価項目ごとの整理

ここでは、特に重要と考えられる項目について、評価結果の特徴を分かりやすく整理します。

## 3.1 学校経営に関すること

### 3.1.1 児童生徒の安全・安心な学校生活

「安全・安心な学校生活」については、保護者から非常に高い評価をいただいています。日々の学校生活に対して安心感をもっていただいていることは、本校にとって大きな励みです。

一方、教職員からは、「安全に配慮する中で、教育活動の幅について悩む場面もある」といった声も見られました。今後は、安心・安全を大切にしながら、子どもたちの学びや経験がより豊かになるよう、引き続き工夫を重ねていきたいと考えています。

### 3.1.2 学校運営への参画と働きやすさ

教職員の評価では、学校運営への参画について「改善の余地がある」と感じている様子が見られました。特に、日々の業務が多忙であることから、十分に意見交換の時間が取れないという声が見られます。

今後は、業務の進め方を見直し、教職員一人ひとりが無理なく力を発揮できる体制づくりを進めていくことが重要だと考えています。

## 3.2 教育活動に関すること

### 3.2.1 一人ひとりに応じた指導と支援

児童生徒一人ひとりの教育的ニーズへの対応については、保護者から高い評価をいただいています。日々の指導や支援が、子どもたちの成長につながっていると受け止めていただけていることが分かります。

教職員は、より良い指導を目指す中で、自らに厳しい視点を持って評価している傾向があります。今後は、こうした専門的な努力が持続できるよう、学校全体で支え合う体制づくりを進めていきたいと考えています。

## 3.3 重点的に取り組む事項

### 3.3.1 働きやすい職場づくり

教職員の評価からは、安心して相談したり協力したりできる職場づくりについて、引き続き工夫が必要であることが分かりました。

学校としては、教職員同士が声を掛け合い、支え合える雰囲気大切にしながら、無理のない働き方を実現していくことを目指します。

### 3.3.2 ICTを活用した指導

ICTの活用については、保護者から厳しい評価が示されており、期待と現状との間に大きな隔たりがあることが分かりました。教職員側でも活用の必要性は共有されているものの、準備時間の確保や環境整備が十分でないことが、実践の広がりを妨げている要因となっています。

今後は、環境整備や研修の充実を図りながら、子どもたちの学びに役立つICT活用を少しずつ進めていきたいと考えています。

---

## 4. まとめ

今回の学校評価から、本校がこれまで大切にしてきた取組が、保護者の皆様から高く評価されていることが確認できました。特に、子ども一人ひとりを大切にした支援や、安心して通える学校づくりは、本校の大きな強みです。

一方で、教職員の働きやすさやICTの活用、学校の取組を外部に伝える工夫などについては、保護者・関係者からも改善を求める声が見られ、学校として真摯に受け止める必要がある課題が明らかになりました。

本校では、これらの評価結果を前向きに受け止め、教職員・保護者・地域の皆様と連携しながら、より良い学校づくりを進めてまいります。今後とも、温かいご理解とご協力をお願いいたします。保護者、関係者の皆様の学校評価への御協力に、心より感謝申し上げます。